

日本現代詩大系

第六卷

野口米次郎、河井醉茗、福士幸次郎、白鳥省吾、百田宗治、山村暮鳥、中勘助、萩原朔太郎、室生犀星、大手拓次、大木惇夫、千家元麿、村山槐多、中川一政、芥川龍之介、武者小路實篤、佐藤惣之助、吉田一穂、尾崎喜八、中西梧堂ほか

日本現代詩大系

第六卷

河出書房新社

日本現代詩大系 第六卷

編集

日夏耿之介

山宮 允

矢野峰人

三好達治

中野重治

大岡 信

昭和五十年二月二十日印刷
昭和五十年二月二十八日發行

編者 三好達治

發行者 中島隆之

印刷 中央精版

製本 中央精版

發行所 河出書房新社

東京都千代田區神田小川町三ノ六

電話(〇三)〇一九二(三七一一)

振替 東京一〇八〇二

目次

二重國籍者の詩抄	野口米次郎	七
林檎一つ落つ抄	野口米次郎	三
沈黙の血汐抄	野口米次郎	元
山上に立つ抄	野口米次郎	三
最後の舞踏抄	野口米次郎	四
我が手を見よ抄	野口米次郎	四
紫羅欄花抄	河井醉茗	五
眞賢木抄	河井醉茗	六
若き女性に贈る抄	河井醉茗	六
花鎮抄抄	河井醉茗	七
太陽の子抄	福士幸次郎	七

展 望 全	福士幸次郎	六
豊麗な花抄	正富汪洋	二三
世界の民衆に抄	正富汪洋	二三
松かげ抄	正富汪洋	二五
憧憬の丘抄	白鳥省吾	二七
大地の愛抄	白鳥省吾	二八
共生の旗抄	白鳥省吾	三三
若き郷愁抄	白鳥省吾	三四
本然生活抄	加藤一夫	三七
船出の歌抄	福田正夫	三〇
海の瞳抄	福田正夫	三三
耕人の手抄	福田正夫	三三
最初の一人抄	百田宗治	二五
一人と全體抄	百田宗治	二七

ぬかるみの街道抄	百田宗治	一四〇
風 車抄	百田宗治	一四三
靜かなる時抄	百田宗治	一四四
何もない庭抄	百田宗治	一四七
偶成詩集抄	百田宗治	一四八
冬花帖抄	百田宗治	一四八
手 抄	井上康文	一五〇
愛子詩集抄	井上康文	一五三
哀吟余情抄	瀬田彌太郎	一五四
さびしき水上抄	瀬田彌太郎	一五五
銅 牌抄	陶山篤太郎	一五八
篝 火抄	陶山篤太郎	一五九
三人の處女抄	山村暮鳥	一六二
聖三稜玻璃全	山村暮鳥	一六三

風は草木にささやいた抄	山村暮鳥	一六
雲抄	山村暮鳥	一八
土の精神抄	山村暮鳥	一八
月夜の牡丹抄	山村暮鳥	一八
萬物節抄	山村暮鳥	一九
月に吠える抄	萩原朔太郎	一九
青猫抄	萩原朔太郎	二三
蝶を夢む抄	萩原朔太郎	二七
青猫以後抄	萩原朔太郎	二五
純情小曲集抄	萩原朔太郎	二四
氷島抄	萩原朔太郎	二七
宿命抄	萩原朔太郎	二九
抒情小曲集全	室生犀星	二六
青き魚を釣る人抄	室生犀星	二五

鳥雀集抄	室生犀星	二九
愛の詩集抄	室生犀星	三〇
第二愛の詩集抄	室生犀星	三〇五
星より來れる者抄	室生犀星	三〇六
田舎の花抄	室生犀星	三〇八
忘春詩集抄	室生犀星	三〇九
高麗の花抄	室生犀星	三二
故郷圖繪集抄	室生犀星	三三
鶴抄	室生犀星	三六
鐵集抄	室生犀星	三八
藍色の蓑抄	大手拓次	三九
蟲・魚・介抄	恩地孝四郎	三六
十二月抄	竹村俊郎	三九
鴉の歌抄	竹村俊郎	三〇

旅 人抄		竹村俊郎	三三
悩める森林抄		多田不二	三三
夜の一部抄		多田不二	三四
萬物昇天抄		相川俊孝	三八
初餐四十四抄		小島貞一	四二
樹蔭の椅子抄		村井武生	四三
着 物抄		村井武生	四五
風・光・木の葉抄		大木惇夫	四八
秋に見る夢抄		大木惇夫	五三
危険信號抄		大木惇夫	五五
風の使者抄		大木惇夫	五七
芥川龍之介詩抄			五九
若 冠抄		平木二六	六〇
春 雁抄		平木二六	六三

琅玕抄	中	勘助	三六
機の音抄	中	勘助	三七
海にうかばん抄	中	勘助	三七
吾往かん抄	中	勘助	三七
飛鳥抄	中	勘助	三八
詩集抄	武者小路實篤		三八
自分は見た抄	千家元磨		三八
虹抄	千家元磨		四〇
野天の光り抄	千家元磨		四〇
新生の悦び抄	千家元磨		四〇
夜の河抄	千家元磨		四〇
炎天抄	千家元磨		四〇
夏草抄	千家元磨		四〇
霞抄	千家元磨		四二

蒼海詩集抄……………	千家元曆	四二
爽かな空抄……………	宮崎丈二	四六
槐多の歌へる抄……………	村山槐多	四七
見なれざる人抄……………	中川一政	四五
改版見なれざる人抄……………	中川一政	四九
野の娘抄……………	中川一政	四〇
狂へる歌抄……………	佐藤惣之助	四四
満月の川抄……………	佐藤惣之助	四六
深紅の人抄……………	佐藤惣之助	四〇
荒野の娘抄……………	佐藤惣之助	四三
華やかな散歩抄……………	佐藤惣之助	四七
季節の馬車抄……………	佐藤惣之助	四五
琉球諸嶋風物詩集抄……………	佐藤惣之助	四五
颶風の眼抄……………	佐藤惣之助	四五

情艶詩集抄……………	佐藤惣之助	四八
トランシツト抄……………	佐藤惣之助	四〇
わたつみの歌抄……………	佐藤惣之助	四一
海の聖母抄……………	吉田一穂	四三
故園の書抄……………	吉田一穂	四七
稗子傳抄……………	吉田一穂	四六
未來者抄……………	吉田一穂	四九
晴 天抄……………	佐藤一英	四九
故園の菜抄……………	佐藤一英	四七
新韻律詩抄……………	佐藤一英	四五
一の賦抄……………	佐藤一英	四六
乏しき木片抄……………	佐藤一英	四八
爪色ノ雨抄……………	佐藤八郎	四〇
空と樹木抄……………	尾崎喜八	四四

高層雲の下抄	尾崎喜八	四八
曠野の火抄	尾崎喜八	四九〇
旅と滞在抄	尾崎喜八	四九三
行人の歌抄	尾崎喜八	四九六
遠望抄	高橋元吉	五〇三
耽視抄	高橋元吉	五〇五
耶律抄	高橋元吉	五〇五
蘆荻集抄	前田鐵之助	五〇
父童子自然抄	前田鐵之助	五一
秋冷抄	赤松月船	五二
山岳詩集抄	中西悟堂	五六
叢林の歌抄	中西悟堂	五九
燕泥集抄	喜志邦三	五三
沙翁風呂抄	喜志邦三	五七

內藤鋹策詩抄	……………	三二
--------	-------	----

解 說	……………	三好達治 五五
-----	-------	---------

作者作品及び起句目次	……………	五九
------------	-------	----

凡例

一 本巻に収載した詩書の多くは今日容易にそれを観ることができないため、能ふ限り原型を保存することに努めた。従つて抄出を餘儀なくされた詩書の目次はすべて各その冒頭に掲げて収載作品の全貌を窺ふに便とし、序文跋文も紙幅の許す限り採録した。

一 それぞれ文末に發行年月日・發行所名・判型・頁數・および定價を記し詩書の型態を推測するに便ならしめた。記載中菊半截判（五・九×四・六）等の表示の括弧内の數字は縦五寸九分横四寸六分の謂であり、序文・目次等の頁數が奇數で終つてゐるのは裏白を含むの意を示したものであり、上製並製本の稱呼は前者はボール厚表紙本綴を、後者は紙裝薄表紙あるひはフランス裝等を表すものである。また序文・目次・本文等の頁數の記載の順序は各書の構成の次第による。

一 排次は原則として同一作者の下にその作者の詩書・詩篇を一括し、單行詩書の發行年代順に配列する方針をとつた。但し各作者排次の順は近代詩形成の史的發展を把へ得るやうの配慮の下に行つた。

一 収載した詩篇はすべて初校本を底本として用ひ、能ふ限り初出雜誌・流布本・全集本等をも参照したが、初校本保存の原則により字句においても行替や句讀點などの一般流布本と異なる若干の箇所も、すべて初校本に従

つたためである。

一 原本において脱落と認められる文字は（ ）を附して補つた。

一 語法・用字などは作者の趣味や慣習によるので多少の混亂も整理せず、ただ漢字・歐語の綴などで印刷上の誤りと認められるものはこれを訂正し、且つ現行と異なる用字のわきにはママを添へた。但し同一作者の同一誤謬には煩を避け初めの一語に添へるにとどめた。

一 漢字のふり假名は特殊のもの・二様に讀めるもの・まぎらはしいものだけを原本のふり假名の中から採り殘したが、音・訓とも全部に互り字音假名遣・歴史的假名遣によつて訂正した。また原本には附されてゐないに拘らず前後の關係から必要と認められるものには推定したふり假名を（ ）つけて附け加へた。なほ二三の特殊な場合であるが、初校本のふり假名に疑問を殘すものには（マコ）と入れた。

一 卷末に作者作品及び起句目次を附し索引に便した。作者・作品の排次は本卷出頭の順に従つた。

一 本書編纂の資料は主として衣笠靜夫氏の藏書に據る。

